

38. ねぎ

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	アミスター20フロアブル	散布	収穫3日前まで	4回以内	
P2	オリゼメート粒剤	株元散布	土寄せ時(但し、収穫30日前まで)	2回以内	
-	クロールピクリン	土壌くん蒸	-	2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	
M7+M3	サーガ水和剤	散布	収穫30日前まで	3回以内	
3	サプロール乳剤	散布	収穫前日まで	5回以内	
M3	(マンゼブ) ジマンダイセン水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
	ペンコゼブ水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
11	ストロビーフロアブル	散布	収穫7日前まで	3回以内	
M5	ダコニール1000	散布	収穫14日前まで	3回以内	
3+M3	テーク水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
7	パレード20フロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	
M1	硫酸銅	ボルト [®] -液を調製して均一に散布する	-	-	

・殺菌剤(参考農薬)

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	アミスター20フロアブル	散布	収穫3日前まで	4回以内	
45+40	ザンプロDMフロアブル	散布	収穫14日前まで	3回以内	
19	ジオゼット水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
12	セイビアーフロアブル20	散布	収穫前日まで	3回以内	
M5	ダコニール1000	散布	収穫14日前まで	3回以内	
3+M3	テーク水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
7	パレード20フロアブル	灌注	育苗期後半～定植当日	3回以内(但し、灌注及び浸漬は合計1回以内)	
		散布	収穫前日まで		
11+4	ユニフォーム粒剤	株元土壌混和	土寄せ時(但し、収穫45日前まで)	1回	
M1	ヨネポン水和剤	散布	収穫7日前まで	4回以内	
40	レーバスフロアブル	散布	収穫7日前まで	2回以内	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
16	アプロードフロアブル	株元灌注	収穫14日前まで	1回	
28+4	アベイル粒剤	株元散布	育苗期後半～定植当日	1回	
30	グレーシア乳剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	
		株元灌注	収穫21日前まで	1回	
28+4	ジュリボフロアブル	灌注	育苗期後半～定植当日	1回	
1	スミチオン乳剤	散布	収穫14日前まで	2回以内	
4	ダントツ水溶剤	散布	収穫3日前まで	4回以内	
	ダントツ粒剤	植溝処理土壌混和	植付時	1回	
5	ディアナSC	散布	収穫前日まで	2回以内	
21	ハチハチ乳剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	
34	ファインセーブフロアブル	散布	収穫3日前まで	2回以内	
3	フォース粒剤	作条土壌混和	定植時	1回	
28	ベネビアOD	散布	収穫前日まで	3回以内	
28+4	ミネクトデュオ粒剤	植溝土壌混和	定植時	1回	
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
14	リーフガード顆粒水和剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アグロスリン乳剤	散布	収穫7日前まで	5回以内	
4	アドマイヤーフロアブル	散布	収穫14日前まで	2回以内	
29	ウララDF	散布	収穫前日まで	3回以内	
1	ダイアジノン水和剤34	散布	収穫21日前まで	2回以内	
4	ダントツ水溶剤	散布	収穫3日前まで	4回以内	
UN	プレオフロアブル	散布	収穫3日前まで	4回以内	
28	プレバソソフロアブル5	散布	収穫3日前まで	3回以内	
1	マラソン乳剤	散布	収穫7日前まで	6回以内	
4	モスピラン粒剤	植溝土壌混和	植付時	1回	
1	ランネート45DF	散布	収穫7日前まで	4回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
苗立枯病 (F)	苗床期間	1. クロルピクリン剤などで苗床の土壌消毒を行う。土壌消毒の項を参照し、登録薬剤を用いる。	1. 毎年苗床の場所を変える。
べと病 (F)	生育期間	1. マンゼブ水和剤(ジマンダイセン、ペンコゼブ)600倍液、又はダコニール1000の1,000倍液を10日毎に散布する。 [参考農薬] 1. ヨネボン水和剤500倍液、アミスター20フロアブル、ザンプロDMフロアブル、レーバソフロアブルの2,000倍液のいずれかを散布する。	1. 多発ほ場では、2～3年休栽する。 2. 日陰や過湿地の栽培を避け、排水と通風を図る。 3. 収穫時に病株は必ず集めて埋めるか、堆肥として完全に醗酵させる。 4. 採種地では、食用栽培を避ける。 5. QoI剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
黒斑病 (F)	生育期間	1. 4-4式ボルドー液を散布する。 [参考農薬] 1. テーク水和剤600倍液、ダコニール1000、ジオゼット水和剤の1,000倍液、アミスター20フロアブル2,000倍液のいずれかを散布する。	1. 多発ほ場では連作しない。 2. テークは、目に刺激性があるので目に入らぬよう注意する。 3. QoI剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
葉枯病 (F)	生育期間	1. テーク水和剤600倍液、ダコニール1000の1,000倍液、アミスター20フロアブル、パレード20フロアブルの2,000倍液のいずれかを散布する。	1. 病斑は、黒斑病と類似しており、肉眼では判別できない。 2. 黄色斑紋病斑は、べと病の初期症状に似ている。 3. テークは、目に刺激性があるので目に入らぬよう注意する。 4. QoI剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
さび病 (F)	生育期間	1. サーガ水和剤 500 倍液、サブロール乳剤 1,000 倍液、アミスター 20フロアブル、ストロビーフロアブルの 2,000 倍液のいずれかを散布する。 2. 4-4式ボルドー液を散布する。	1. 多発ほ場では連作しない。 2. 肥切れすると、発生が多くなる。 3. Q o I 剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
白絹病 (F)	生育期間	1. 発病株は菌核形成前に、ほ場外へ埋却する。 [参考農薬] 1. ユニフォーム粒剤を 9 kg/10a 土寄せ時に株元土壌混和する。	1. 多発ほ場では連作を避け、イネ科作物と輪作する。 2. 田畑輪換栽培を行う。 3. 密植、深植え、過度の土寄せは発病を助長させる。
黒腐菌核病 (F)	育苗期後半 ～ 定植当日	[参考農薬] 1. パレード 20フロアブル 100 倍液をセル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊(約 30×60cm、使用土壌約 1.5～4L)あたり 0.5L 灌注する	1. 薬剤防除だけでなく、残渣処理などの耕種的防除を併せて行う。 2. 酸性土壌で発生が助長されるので、石灰資材などにより土壌 pH を適正に保つ。
	生育期間	[参考農薬] 1. セイビアーフロアブル 20 の 1,000 倍液、パレード 20フロアブル 2,000 倍液のいずれかを散布する。	
軟腐病 (B)	生育期間	1. オリゼメート粒剤を 6 kg/10a 土寄せ時に株元散布する。	1. 多肥を避けるとともに、土寄せ時に株を傷つけないよう注意する。
ネギアザミウマ (アザミウマ類) (ウイルス媒介)	定植時	[参考農薬] 1. モスピラン粒剤を 10a に 6 kg 植溝土壌混和する。	1. 採種地では、食用栽培を避ける。 2. 高温乾燥時に多い。 3. アグロスリンは蚕毒及び魚毒に、アドマイヤー、ダントツ、ディアナ、ハチハチ、プレオ、モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 4. ランネートは吸入毒性が強いため、散布する時は必ずマスクを着用する他、風向きなどに注意し、噴霧を吸入しない。 5. ねぎは、ネギアザミウマが媒介するアイリスイエロースポットウイルス(IYSV)の伝染源となる恐れがあるので、アザミウマ類の防除を徹底する。 6. アグロスリン、アドマイヤー、スミチオン、ダイアジノン、ディアナ、ハチハチ、ファインセーブ、マラソン、モスピラン(顆粒水溶剤のみ)はアザミウマ類の登録がある。
	生育期間	1. スミチオン乳剤、ハチハチ乳剤の 1,000 倍液、ファインセーブフロアブル、モスピラン顆粒水溶剤の 2,000 倍液、ディアナ SC の 5,000 倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. ダイアジノン水和剤 34 の 600～1,000 倍液、ウララ DF、プレオフロアブルの 1,000 倍液、ランネート 45 DF の 1,000～2,000 倍液、アグロスリン乳剤、ダントツ水溶剤の 2,000 倍液、マラソン乳剤 2,000～3,000 倍液、アドマイヤーフロアブル 2,000～4,000 倍液のいずれかを散布する。	
ネギコガ	生育期間	[参考農薬] 1. プレバソンフロアブル 5 の 2,000 倍液を散布する。	1. プレバソンは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
ネギハモグリバエ (ハモグリバエ類)	定 植 時	<ol style="list-style-type: none"> 1. ダントツ粒剤、ミネクトデュオ粒剤を 10a に 6kg 植溝土壌混和する。 2. ジュリボフロアブル 200 倍液をセル成型育苗トレイ 1 箱若しくはペーパーポット 1 冊あたり 0.5ℓ 灌注する。 3. アベイル粒剤をセル成型育苗トレイ 1 箱若しくはペーパーポット 1 冊あたり 40g、株元に散布する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ダントツ、ミネクトデュオ、ジュリボ、アベイルは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. ミネクトデュオはハモグリバエ類の登録がある。
	生 育 期 間	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーフガード顆粒水和剤 1,500 倍液、ダントツ水溶剤、ベネビアODの 2,000 倍液、ディアナSCの 2,500 倍液、グレーシア乳剤 3,000 倍液のいずれかを散布する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. グレーシア、リーフガード、ダントツ、ベネビア、ディアナは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. ベネビアはハモグリバエ類の登録がある。
タネバエ	植 付 時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 堆肥は十分完熟したものを施用する。 2. 前作の残渣等が十分分解してから、作付けを開始する。 3. 土壌水分が高い条件では産卵数が多く、幼虫の生存率が高まる傾向があるため、排水性を確保する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多発させない環境を整えるのが重要である。 2. 未熟堆肥や魚かす、鶏糞を使用すると、臭いに誘引され発生が多くなる。
ネダニ類	定 植 時	<ol style="list-style-type: none"> 1. フォース粒剤を 10a あたり 9kg 作条土壌混和する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. フォースは蚕毒及び魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)
	生 育 期 間	<ol style="list-style-type: none"> 1. アプロードフロアブル 500 倍液、またはグレーシア乳剤 2,000 倍液を 1㎡ 当たり 1ℓ、株元灌注する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. グレーシアは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。